

2011.OCT

釣り人が創る逸品釣具 ぎあ・らぼ

お気楽Gear-labニュースレター第35号です。

一気に秋色になった空と海を毎週2回は見えています。つまり・・・週2回は釣りに行っているということです。(～;) Gear-Labを始めたころ、同じくらい釣りをしていました。正直申しまして、釣りの経験があまりなくて釣行回数と釣り雑誌読破に異常にのめりこんでいたころです。廻りの先輩たちに笑われながらも「なるほどお～」と素直に何でも吸い取っていたように思います。いえいえ、実はあの頃と精神的にはあまり変わっていないのかもしれませんが、それどころか釣行回数が増えてきて、トコトンやっしまわれないといけない私の性格はもしかしたらGear-Labの仕事は天職なのかもしれないと、ありがた

い気持ちでいっぱいです。

考えてみると子供の頃から海が好きで、まさか自分が釣具製造の仕事をするとは思ってもみませんでした。海を見ながら仕事ができたらいいなあ～と小学生のときに父親に連れられて行き、波をじっと見ながら憧憬としてしっかり焼き付けました。小学生のときに思ったことはその後の人生に大きな影響を及ぼします。あの不思議な幸運に包まれたような時期は、既に失われた世界です。もう経験することはできません。今回はそんな影響を与えてくれた話をさせていただきます。



旅暮らし四方山話。(その25)

このニュースレターの第3号で話しました。憧れのハワイ空路の話です。

バックナンバーは<http://www.gear-lab.com/newsletter/main.htm> にございます。

なぜ、ハワイなのか・・・

これもやっぱり小学生のときに国語の教科書にあった川端康成の文章にあったのです。あの文章を読んだ小学校4年生の私はいつかハワイに行つてやるぞと心に刻んだのでした。今回は文章を掲載させていただきます。次なる段落は『川端康成全集』美の存在と発見 第十五巻p201 です。

Gear-labは普通の釣具店にはない新しく夢のある逸品釣具を紹介し続けます。全国の熱い人たちと共に本当に良いものを世の中に出すことに真剣であり常識にとられない商品開発や逸品釣具を求める方とのみチームを組んでいきます。

わたくし、カハラ・ヒルトン・ホテルに滞在して、二月近くなりますが、朝、浜に張り出した放ち出しのテラスの食堂で、片隅の長い板の台におきならべた、ガラスのコップの群れが朝の日光にかがやくのを、美しいと、幾度見たことせう。

ガラスのコップがこんなにきらきら光るのを、わたくしはどこでも見たことはありません。

やはり日の光りが明るく、海の色があざやかであるといふ、南フランス海岸のニイスやカンヌでも、南イタリアのソレント半島の海でも、見たことはありません。

カハラ・ヒルトン・ホテルのテラス食堂の、朝のガラスのコップの光りは、常夏の楽園といはれるハワイ、あるいはホノルルの日のかがやき、空の光り、海の色、木々のみどりの、鮮明な象徴の一つとして、生涯、わたくしの心にあるだろうと思ひます。

コップの群れは、まあ出勤態勢の整列できちんと置きならべたさまなのですが、みな伏せてありまして、つま

り、底を上にしてありまして、

二重三重にかさねたのもありまして、大きい小さいのもありまして、ガラスの肌が触れ合ふほどのひとかたまりに揃へてあるのです。

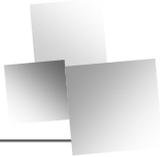
それらのコップのからだまるごとが、朝日にかがやいているのではありません。

底を上にして伏せた、その底の丸い縁のひとところが、きらきら白光を放ち、ダイヤモンドのやうにかがやいているのです。コップの数はいくつくらいでせうか、二三百はあるでせうか、そのすべてが底の縁の同じところを同じやうにかがやかせているわけではありませんが、かなり多くのコップの群れが、底の縁の同じやうなところに、かがやく星をつけているのです。

コップの行列が光りきらめく点の列を、きれいにつくついているのです。

・・・と、この文章はなんと約70年前の文章なのです。

私は28年前に、ハワイ大学の空手指導員だったときにワイキキの東のダイヤモンドヘッドの向こう側にあるこの「カハラヒルトンホテル」(現在のザ・カハラホテル&リゾート)に行きました。それはそれは格調高いホテルで (右上につづく)



日本の昭和天皇が泊まったことがあり、当時は一泊20万円ということ覚えてます。ザ・マイレームというレストラン&バーは、アメリカ独特の生演奏と社交ダンスの場所。ハワイでありながら、半袖シャツは入れてくれません。ホテルマンが自分の体型にあう白いジャケットを素早く探してくれて袖を通してくれます。なんとジェントルマンなサービス！フトコロの寂しさなどどうでもなれと思ひながら、私は川端康成のことなど忘れて、アメリカを味わってました。

金髪でチャイナドレスのボーカルの彼女に一目惚れして半年間毎日のように通いました。それはまだ売れていない「セルジオメンドス」のグループだったのです。かぶりつくようにして聞いていた「マシュケナダ」は、今でも心地よい歌です。下のカハラヒルトンの写真はカラーでないのが残念です。バックナンバーで是非綺麗な写真をご覧ください。ワイキキの喧噪を離れてとても贅沢な空間です。

どうも私のがんべーになったのはハワイに原因がありそうです。特にバーに一人で行くと必ず出会いがあります。横に座った人が一人であればほぼ100%お互い話しかけます。実践的な英語の勉強には一番良いのかもしれませんが。残念ながら女性が一人で呑みにくることはありません。女性が一人でカウンターで呑んでいる姿を見かけたら、それは「SEXはOKよ。」というサインです。つまりフッカーと言われる売春婦しか一人でカウンターには座りません。

私の友人がアメリカでそのような環境で女性と仲良くなって、部屋で一緒に朝を迎え、「これから日本とアメリカを毎週行き来しないといけなくなったな。」とボーっと考えていたら「300ドルでいいわ。」と請求され、一気に夢ごちから目覚めたという笑い話があります。

私の話じゃありませんよ～。私じゃないって。これ嫁さんが読んでるんですから。 (´ ˋ) \(-;) バキッ!



アシストフックが完成です。

ジギングでシャクっているときに、ふっとジグが軽くなったり何かしら違和感があったにも拘わらず鉤にのらないことがよくあります。想像の世界ですが、ジグ本体に魚体が触ったとかいうのですが、私は魚が実際に軽くジグをくわえてたりするのではないかと想像をしてました。ただ1本のアシストフックにかからなかったのではないかと。

では、どうしたら掛るかというテーマで作られた鉤で、軽さと強さと刺さりを徹底的に追求した鉤です。

そのなかでも圧倒的な軽さは魚の小さな吸い込みに鉤が簡単に口の中に入っていきます。もうすぐリリースです。 ^_^



株式会社ギアラボ

〒813-0016 福岡市東区香椎浜2丁目5-2-701

Tel 092 - 663 - 5196

Fax 092 - 663 - 5102

Mail NQE50210@nifty . Com

このお気楽ニュースレターのバックナンバーは下記にございます。

<http://www.gear-lab.com/newsletter/main.htm>

Gear-labホームページ

<http://www.gear-lab.com>

毎月の新製品に追われ、全国を旅しながら、モノづくりと販売のお手伝いをしています。

お気軽にメールください。面白い釣具があれば全国どこへでも参上します！一杯呑みましょう。(。~) 福山克義(ふくやまかつよし) メール NQE50210@nifty.com



お気楽DETC Hこと福山でした